

平成29年3月21日(火)10:00～12:00  
第2回 港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策検討委員会

# 伊勢湾WG報告事項

---

## 13社にアンケート・ヒアリングを実施

**過去の被災実績** : 伊勢湾台風(S34.9)、台風18号(H21.10)等  
**避難対策** : 地震・津波に対する避難計画・避難訓練  
**高潮対策** : 伊勢湾台風を考慮して地盤・機器据え付けレベルを設定、防潮扉、コンクリート擁壁等の浸水対策など

### 要望事項

- 高潮情報(高潮規模・浸水深)の予想
- 高潮のメカニズムや危険度等の説明
- 高潮リスクの明確化
- 行政からの情報提供
- 非常時の交通情報

## 港湾における高潮リスク低減方策検討WG(伊勢湾)

### リスクの棚卸し

- 港毎に機能が異なることから、港毎に検討。

### タイムラインの検討

- 業種により災害への対策が異なるため、業種毎に分類。
- 港長の警戒体制が荷役作業中止のトリガー。

### 情報提供の内容

- 各港の堤外地の利用状況
- 津波・高潮浸水想定図
- 港長の警戒体制発令基準
- 地震津波と高潮の共通点・相違点
- 注意報・警報の発表区域、発令基準 等

## WG(伊勢湾)での意見

### 【議論のポイント】

- リスクを列挙しているが、全て対応出来る訳では無いことを認識する必要がある。
- 地震・津波と比べて高潮は対策をとる時間的な余裕と被害想定のがんさがあるため切実感が比較的低い。
- 台風接近前のリードタイムを台風対策にどう活用するかが重要。

### 【マニュアルに記載すべき項目・事項】

- 業種毎に対策を行うトリガー(気象情報や港長の警戒体制等)が異なるため、業種毎に検討して記載する必要がある。
- 企業が高潮対策を検討する上で、高潮リスクを提示する必要がある。

### 【その他特筆事項】

- 荷役中止や回避行動、防潮扉の閉鎖を行うために、時々刻々の精度が高い高潮浸水シミュレーションの情報が欲しい。
- 行政と民間企業との連絡体制の確立。
- 企業は災害の発生確率が低いものに対して投資の理解が得られないため、確率や災害リスクを明確にして防災対策を考える。